

取付説明書

この度はMONSTER SPORT製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本書は、本製品の取付、取扱についての要領と注意を記載してあります。
安全に正しくご使用いただくために、本書を必ずお読みください。

品番・適合車種

品番	年式	適合車種
8FBP20	'05. 9~	ZC31S

構成部品

※作業をはじめる前に構成部品がそろっているか確認してください。



No.	品 名	数量
①	ボックスA	1
②	ボックスB	1
③	ボックスC	1
④	エプトシーラー t:5mm	2
⑤	エプトシーラー t:15mm	1
⑥	ガasket	2
⑦	断熱シート	1
⑧	ステーA	1
⑨	ステーB	1
⑩	座金組込キャップボルトM5×20	3
⑪	M5クリップナット	3
⑫	バネ座金組込ボルトM6×40	3
⑬	バネ座金組込ボルトM6×25	1
⑭	フランジボルトM6×25	4
⑮	フランジボルトM6×15	1
⑯	フランジナットM6	1
⑰	M6平ワッシャー外径φ20	4
⑱	マウントカラーA	3
⑲	マウントカラーB	1
⑳	ウレタンゴム t:5mm φ20	8
㉑	クォーターファスナー・スタッド	5
㉒	クォーターファスナー・樹脂ワッシャー	10
㉓	クォーターファスナー・クリップ	5
㉔	両面テープ	1
㉕	PFX400/ホースバンド付き	1
㉖	エアファンネルアダプター	1
㉗	エアフロセンサアダプター	1
㉘	シリコンホース	1
㉙	リザーバータンク	1
㉚	90度ホース	1
㉛	ホース (7×11×600)	1
㉜	ホース (5.4×11.4×600)	1
㉝	ステーC	1
㉞	ステーD	1
㉟	ステーE	1
㊱	パイプクランプ	1
㊲	コルゲートチューブ	1
㊳	タイラップ	4
㊴	フランジボルトM6×8	2
㊵	ホースクランプ小	1
㊶	ホースクランプ大	1
㊷	取付説明書・型紙	各1
㊸	monster sportステッカー	1

製品についての注意事項

- 適合車種以外の車両には絶対に取り付けしないでください。
- 製品の取扱いには細心の注意をはらい、落下させたり上に重いものを載せたりして、製品に荷重・衝撃を加えるような行為は絶対に行わないでください。
- 本製品、または取付説明書の内容につきまして不明な点等ございましたら、製品購入先へお問い合わせ頂き、ご理解された上でお取扱くださいますようお願いいたします。

取付上の留意事項

- 取付作業は、障害物のない安全を確保できる広く平らな場所で行ってください。
- 取付けの際、ボディに傷をつけないよう注意して作業を行ってください。
- 作業は必ずエンジンが冷えた状態で行ってください。やけど等重傷を負う可能性があります。

取付準備作業

- エンジンを停止し、トランスミッションがニュートラル(AT車はパーキング)にあることを確認し、パーキングブレーキ(サイドブレーキ)を確実に効かせてください。また、エンジンキーは必ず取外しておいてください。
- 取付けに必要な工具(用具)は、あらかじめ用意しておいてください。

メンテナンス

- オイル交換、エアクリーナー交換はボックスAを取外して行ってください。
- プラグ交換はボックスA/Bを取外して行ってください。
ボックスBを取外す際、マウントカラーA・Bをエンジンルームに落とさないように注意してください。
- 定期的に取付状態を確認してください。
- 使用過程において劣化、破損した場合は速やかに新品に交換してください。
- 使用中に異常を感じたら直ちに車を停止し、各部を点検してください。

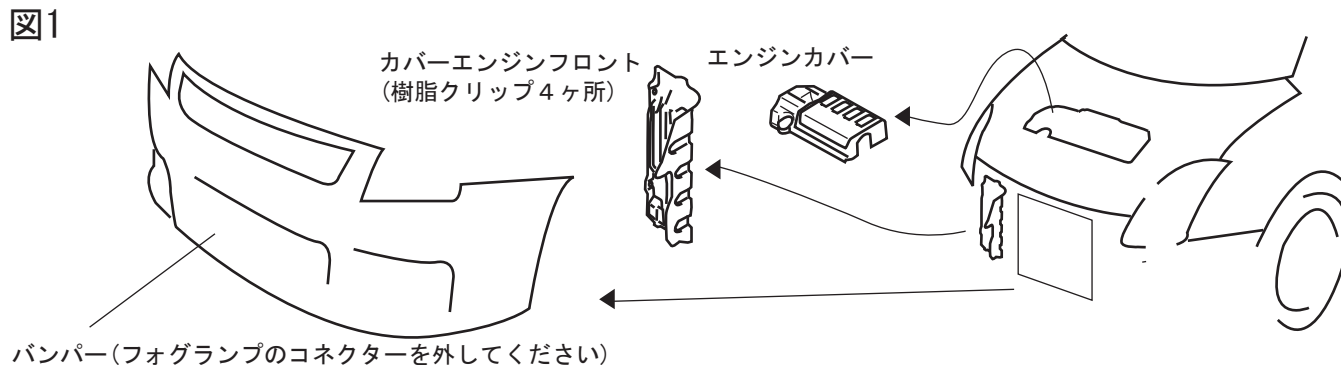
本製品の取付作業、取付後に関する事故、破損について弊社は一切の責任を負いかねます。

取付方法

- ・本製品の取付に際して、脱着する純正部品は自動車メーカー発行の整備手順書に従い作業してください。
- ・本製品の取付に際して、脱着する純正部品は紛失または傷などつかないように保管してください。

1. 各部取り外し(図1・図2参照)

1. 車輛からフロントバンパー・エンジンカバー・フロントバンパー・カバーエンジンフロントを取り外してください。



2. ①～⑦の順にエアクリーナーボックス・エンジンカバーステー・プラグカバーのボルトを取外してください。
プラグカバーの正面から見て右上のボルトは、正面から見て左上に取付けてください。

(⑦はエアクリーナーボックスを取外した後の作業になります。)

※取外したホースバンド・ボルト・樹脂クリップ類は再使用するものも含まれますので、紛失しないように注意してください。

図2

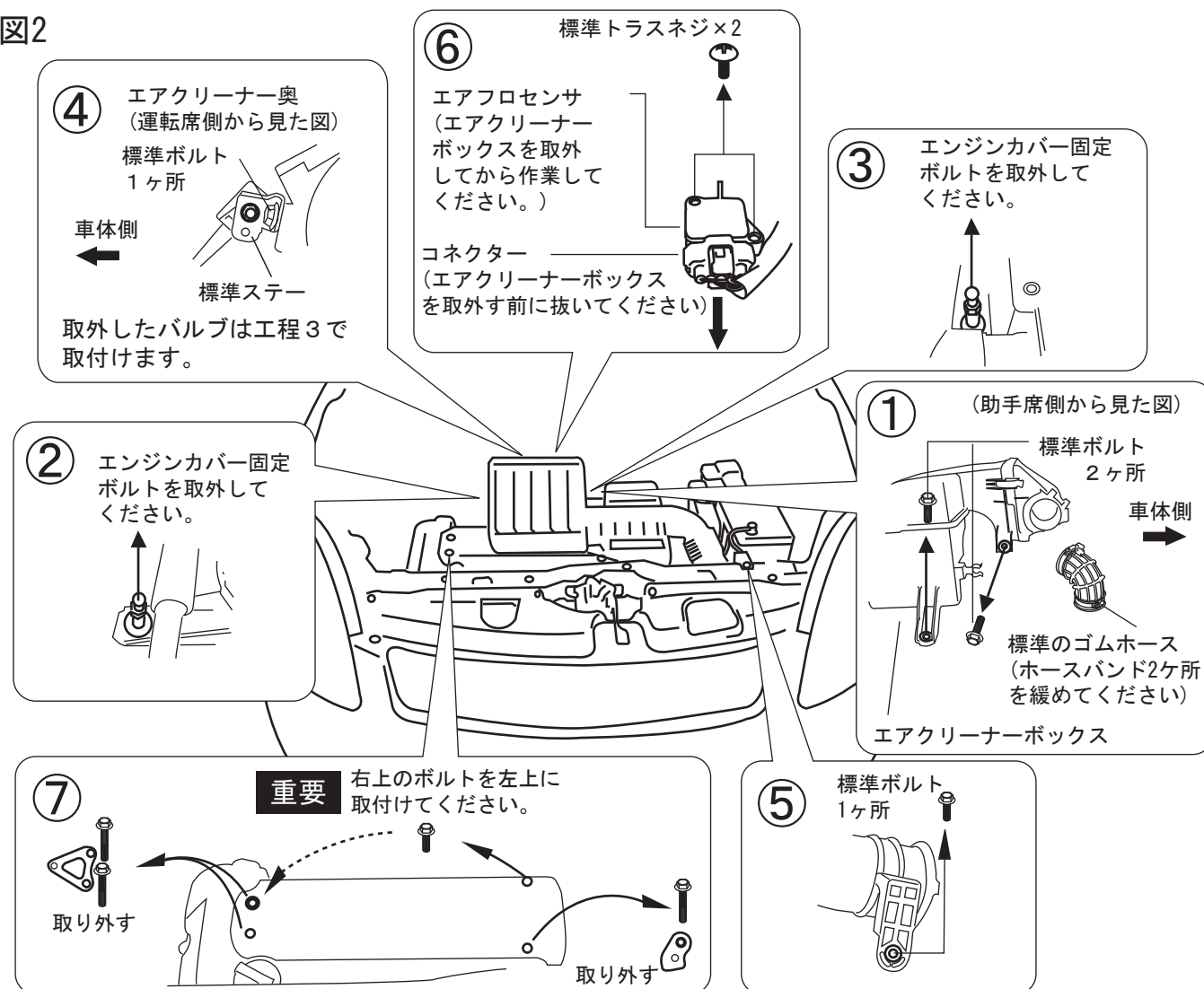
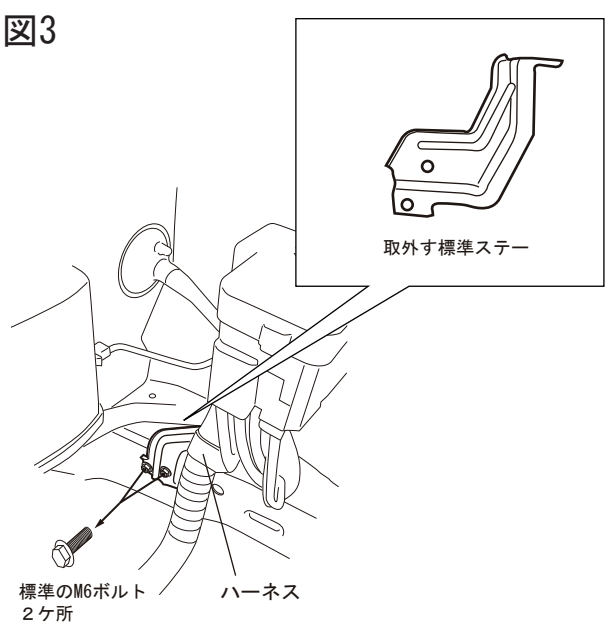


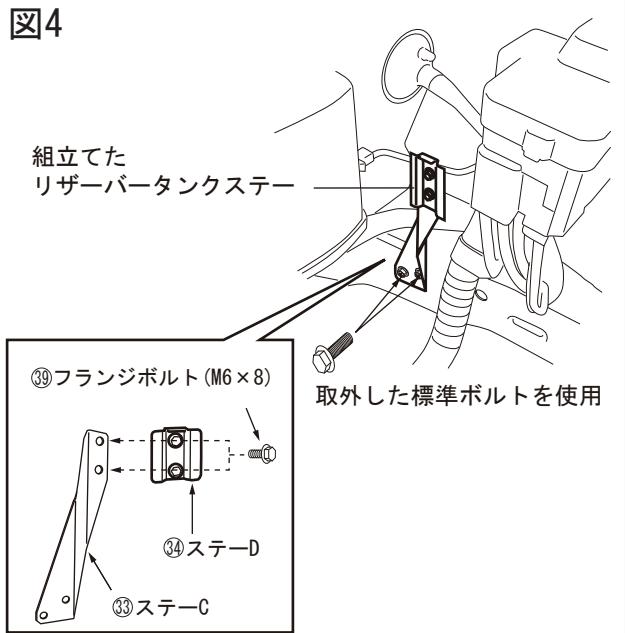
図3



2. リザーバタンクの交換(図3～図6)

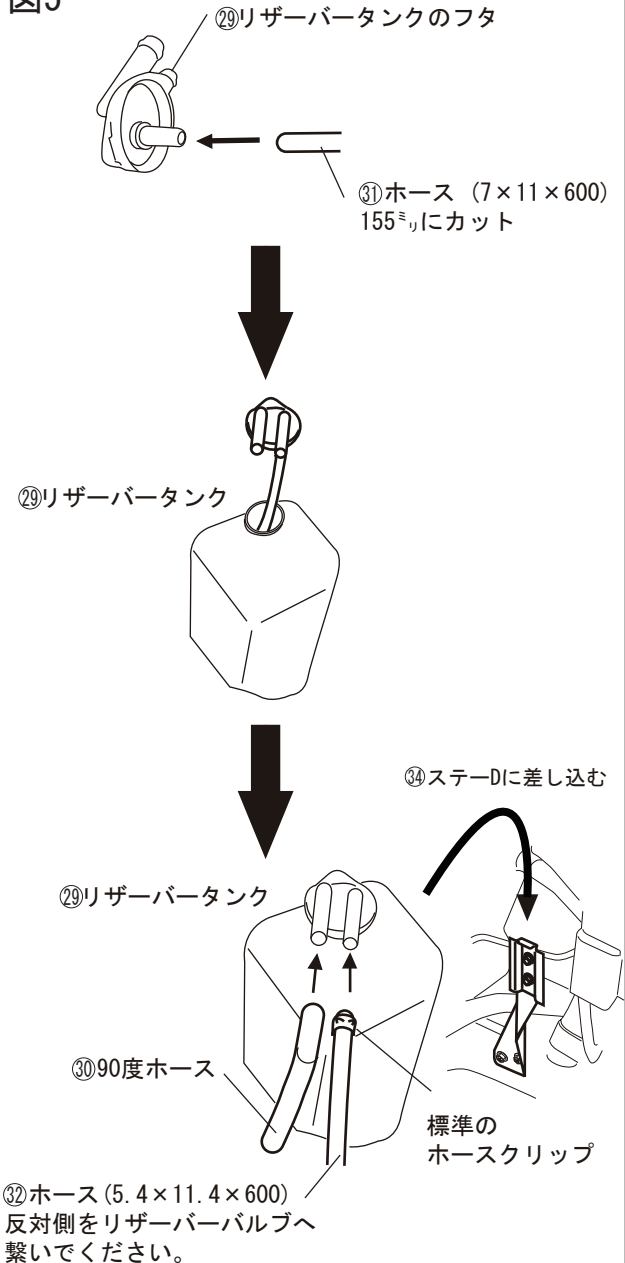
1. バッテリーの奥にあるハーネスを取外し、これを固定していた標準のステーを取外してください。(図3)

図4



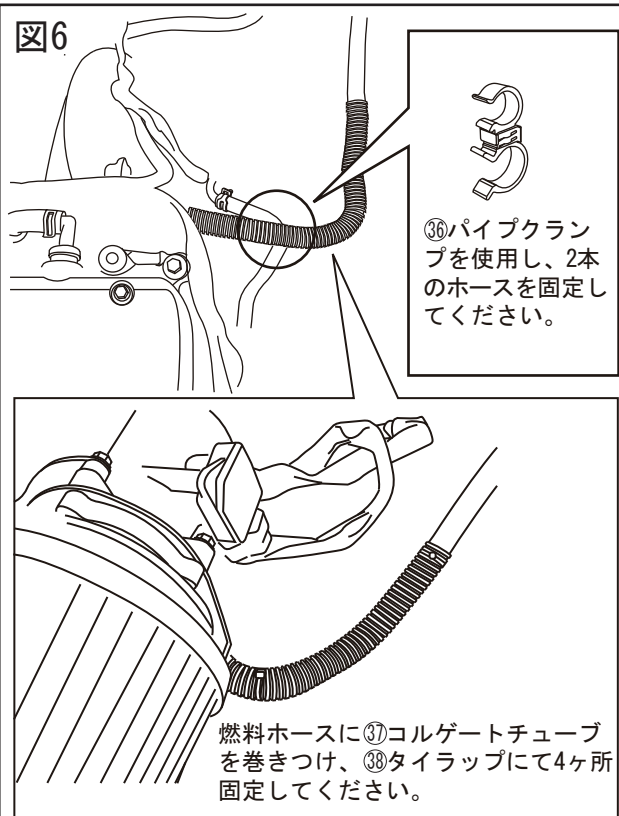
2. ③③ステアC・③④ステアDを組立ててください。(図4)
3. ③③ステアC・③④ステアDを標準ステアが固定されていた位置に③⑨フランジボルト (M6×8) で取付けてください。(図4)

図5



4. 標準のリザーバタンクを上スライドさせて取外してください。標準のリザーバタンクからホースを取外して中のクーラントを②⑨リザーバタンクに移し替えてください。この際、クーラントがこぼれないように②⑨リザーバタンクを固定するか、2人で作業してください。
5. リザーババルブと繋がっているホースを取外してください。ホースを留めていたホースバンドは後から使用しますので、保管してください。
6. キャップ裏側に③①ホース (7×11×600) を155ミリの長さにカットして取付けてください。(図5)
7. ③①90度ホースと③②ホース (5.4×11.4×600) を取付けてください。③②ホース (5.4×11.4×600) は標準ホースクリップで留めてください。②⑨リザーバタンクを③④ステアDに確実に差し込んでください。

図6



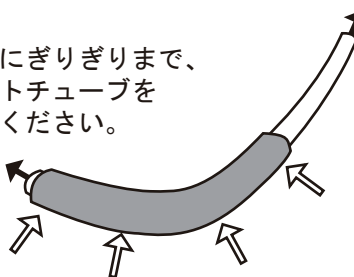
8. 燃料ホースに③⑦コルゲートチューブを巻きつけ、③⑧タイラップを使用して固定してください。(4ヶ所)
9. ③⑥パイプクランプを使用して2本のホースを固定してください。

補足説明図

エンジン側にぎりぎりまで、
③⑦コルゲートチューブを
巻きつけてください。

エンジン

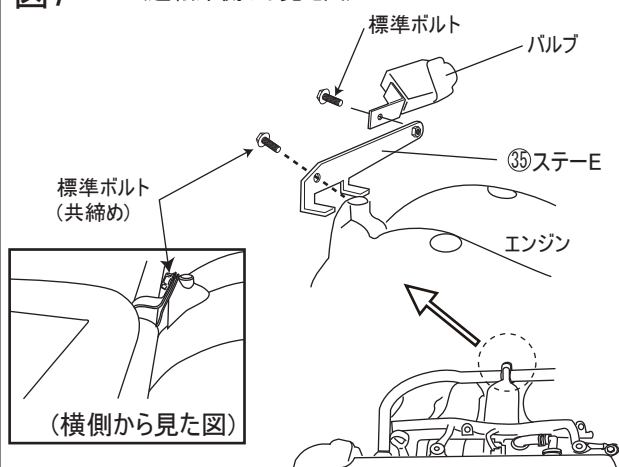
車体側



③⑧タイラップ固定指示位置(白矢印4ヶ所)

図7

(運転席側から見た図)

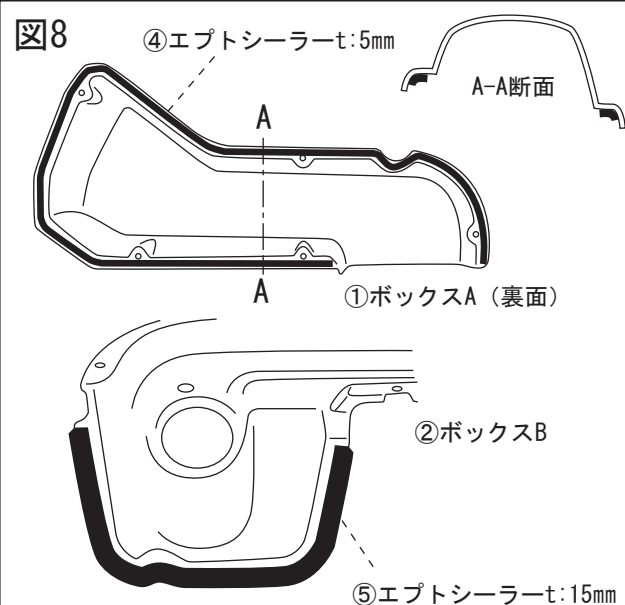


3. ステーEの取り付け(図7)

1. ③⑤ステーEをエンジン奥の標準ホースバンドが固定されていた場所に共締めして取付けてください。
2. 工程1で取外したバルブを、標準ボルトを使用して③⑤ステーEに取付けてください。

図8

④エプトシーラーt:5mm



4. エプトシーラーの貼りつけ(図8)

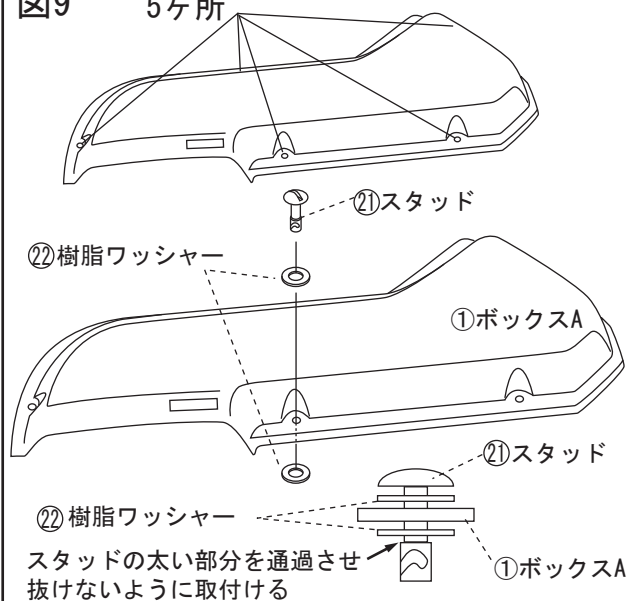
1. ①ボックスAに④エプトシーラーt:5mm・②ボックスBに⑤エプトシーラーt:15mmを貼付けてください。



注意 エプトシーラー貼付部を確実に脱脂してください。

図9

5ヶ所



5. クォーターファスナーの取付け(図9～図10)

- ①ボックスAのフランジ穴5ヶ所にクォーターファスナー、②1スタッドと②樹脂ワッシャーを取付けてください。
②1スタッドに②樹脂ワッシャーを1枚取付け、①ボックスAを挟んで、②樹脂ワッシャー2枚目を取付けてください。

※②クォーターファスナー・スタッドは①ボックスAに対してフリーの状態を取付けられます。

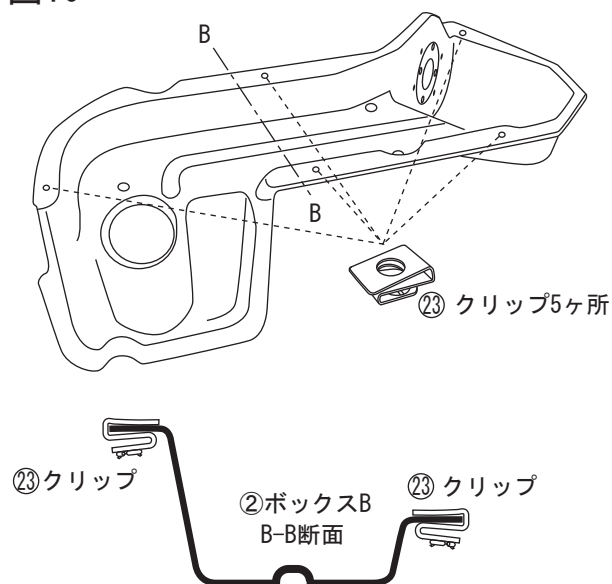


注意

②樹脂ワッシャーは②1スタッドの太い部分を通過させ抜けないように取付けてください。

図10

②ボックスB



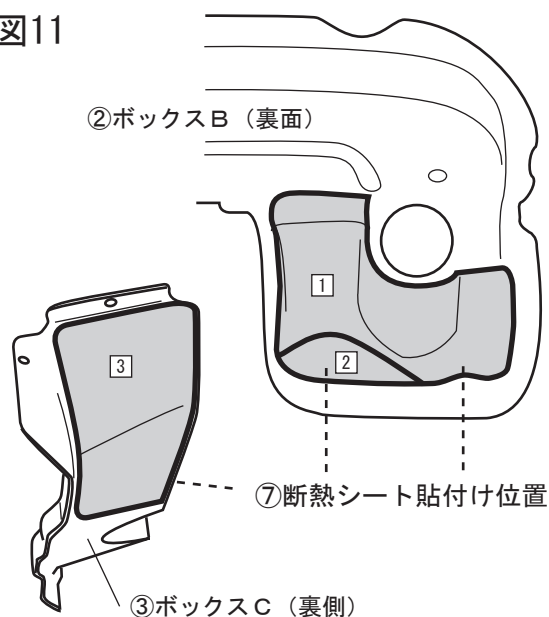
- ②ボックスBのフランジ穴5ヶ所にクォーターファスナー・②3クリップを取付けてください。

クォーターファスナーの開閉方法

クォーターファスナーはマイナスドライバーで開閉します。
スタッドをクリップに差し込みながら、90°回転（時計回り）に回すことでロックされます。
外す場合は、90°逆回転することで解除されます。

図11

②ボックスB（裏面）



6. 断熱シートの貼りつけ(図11)

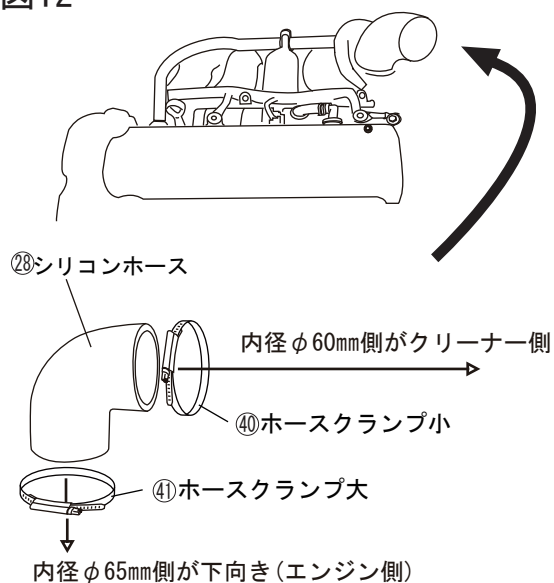
- ⑦断熱シートの表側（銀色）の面に②5型紙をあて、切取線に沿ってカットしてください。
- ②ボックスB・③ボックスCの裏面に⑦断熱シートを貼付けてください。



注意

⑦断熱シート貼付部を確実に脱脂してください。

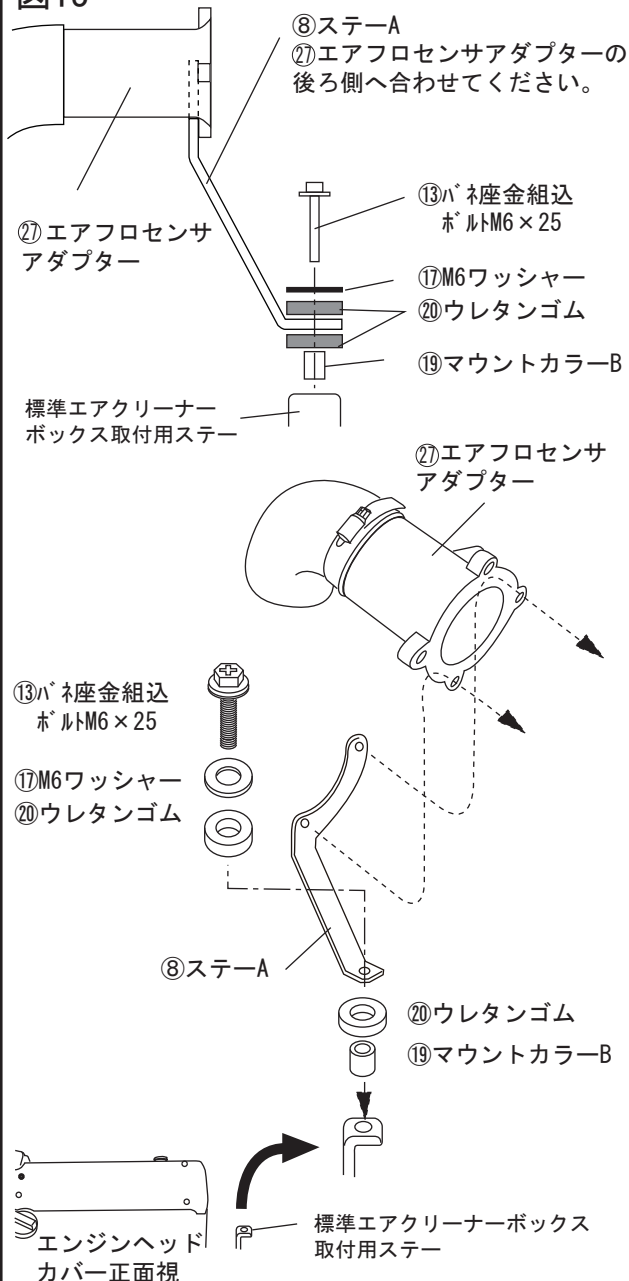
図12



7. エアフロセンサアダプターの取付け(図12～図13)

- ②⑧シリコンホースを内径φ65mm側をエンジンへ、④①ホースクランプ大を使用して取付けてください。
- ④①ホースクランプ小をクリーナー側に仮装着してください。

図13



- ②⑧シリコンホースに②⑦エアフロセンサアダプターを差し込んでください。
- ⑲マウントカラーB・⑳ウレタンゴム・⑰M6ワッシャー・⑬バネ座金組込ボルトM6×25を使用して⑧ステーAを、標準エアクリーナーボックス取付用のステーへ取付けてください。

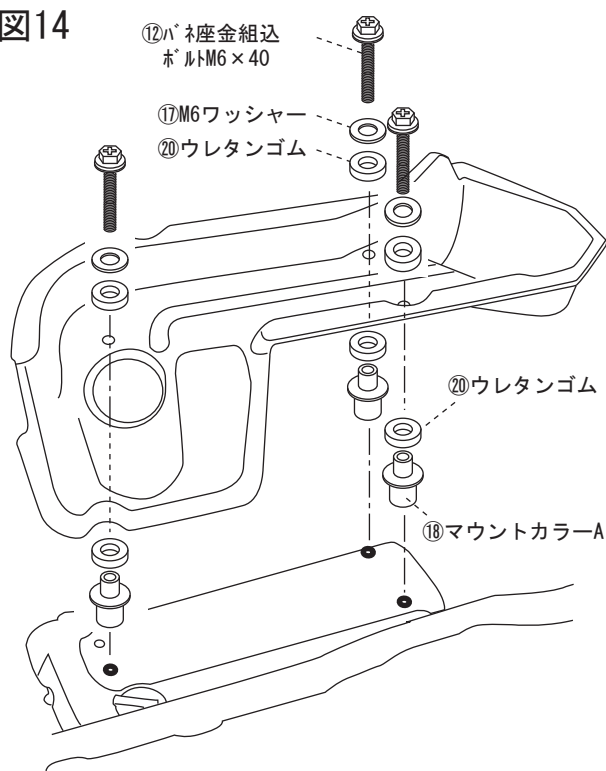
⚠ 注意

⑧ステーAは②⑦エアフロセンサアダプターの後ろ側へセットしてください。
本締めは行程9で行いますので、仮締めにしてください。

⚠ 注意

エンジンルームに⑳ウレタンゴムや⑲マウントカラーBを落とさないように注意してください。

図14

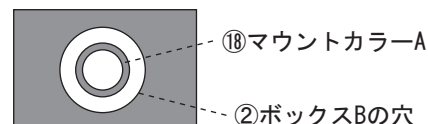


8. ボックスBの取付け(図14)

- ⑱マウントカラーA・⑳ウレタンゴム・⑰M6ワッシャー・⑫バネ座金組込ボルトM6×40を使用して、㉑ボックスBをエンジンヘッドカバー部へ取付けてください。

⚠ 注意

㉑ボックスBの穴が⑱マウントカラーAに干渉しないように位置合わせをしてください。



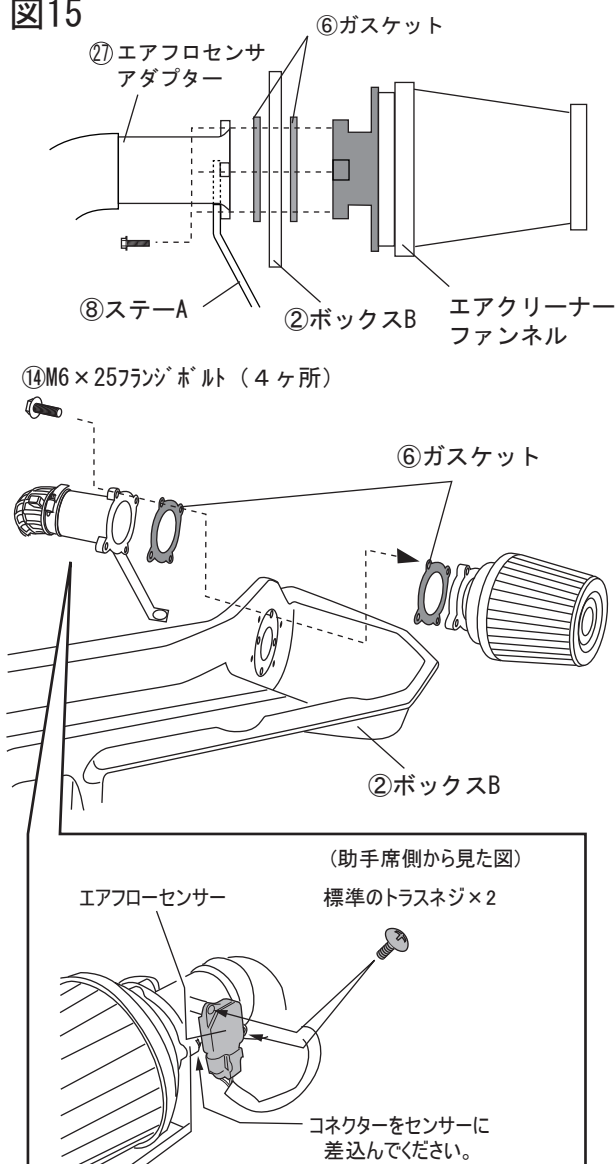
⚠ 注意

本締めは行程9で行いますので、仮締めにしてください。

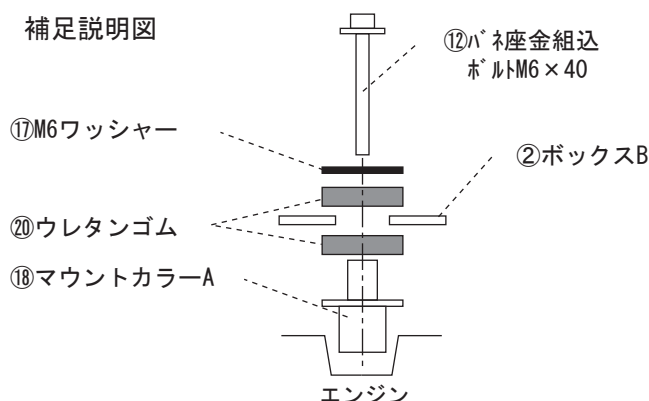
⚠ 注意

メンテナンス等で㉑ボックスBを取外す場合は、⑱マウントカラーAをエンジンルーム内に落とさないように注意してください。

図15



補足説明図



9. P F Xの接続(図15)

- ⑥ガスケット・⑭フランジボルトM6×25を使用してファンネル・エアクリーナーを㉑ボックスB及び㉑エアフロセンサアダプターへ取付けてください。

⚠ 注意

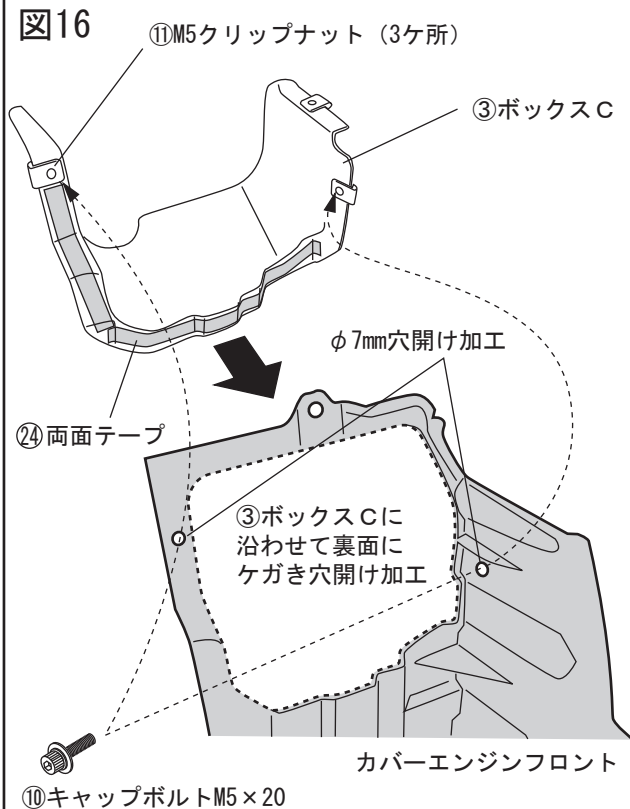
⑧ステーAは㉑エアフロセンサアダプターに共締めしてください。
エンジンルームやボックス内に⑥ガスケットを落とさないように注意してください。

- エアフロセンサを㉑エアフロセンサアダプターへ取付けてください。
- ⑧ステーAの車体側を本締めしてください。
- ㉑ボックスBのエンジンヘッドカバー取付部を本締めしてください。

⚠ 注意

㉑ウレタンゴム部は、⑫⑬ボルトが⑱⑲マウントカラーA・Bに当たるまで、確実に締込んでください。
各部のボルト類の本締めを行ってください。
また、締め忘れが無いが、確認してください。

図16



10. ボックスCの取付け(図16)

1. ③ボックスCをカバーエンジンフロントの裏面に沿わせて、③ボックスCの内側をケガいてください。同時に穴位置(φ7mm・2ヶ所)もケガいてください。
2. カバーエンジンフロントにケガいたラインと穴位置を穴開け加工してください。
3. ③ボックスCのフランジに②④両面テープを貼付けてください。

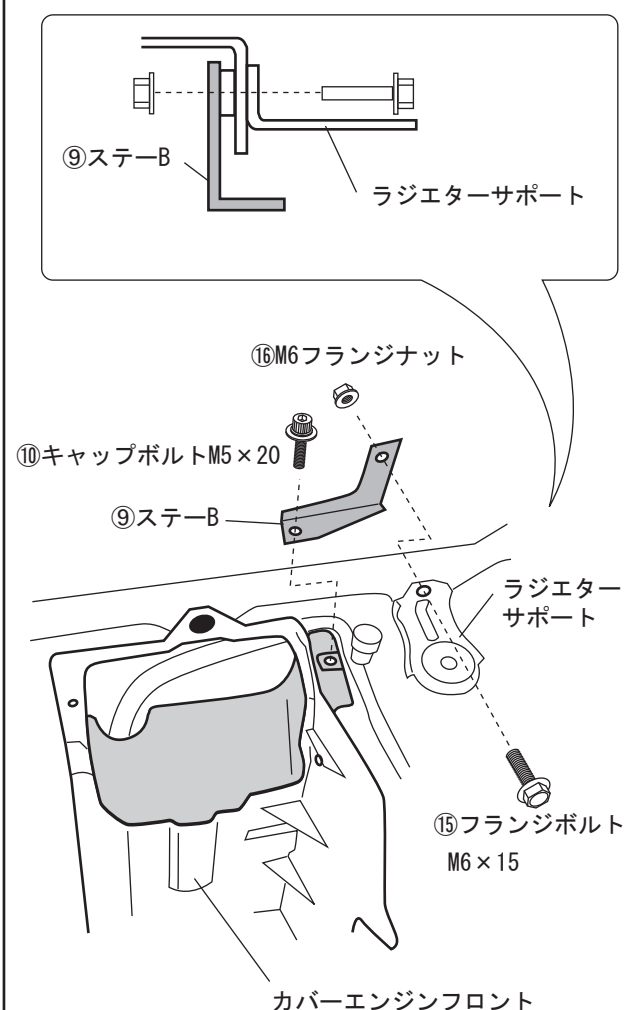


注意

②④両面テープ貼付面の油脂や汚れは確実に除去し、充分に脱脂してください。

4. ③ボックスCに①①M5クリップナット(3ヶ所)を取付け、カバーエンジンフロント側から付属の⑩⑩キャップボルトM5×20を使用して③ボックスCを取付けてください。

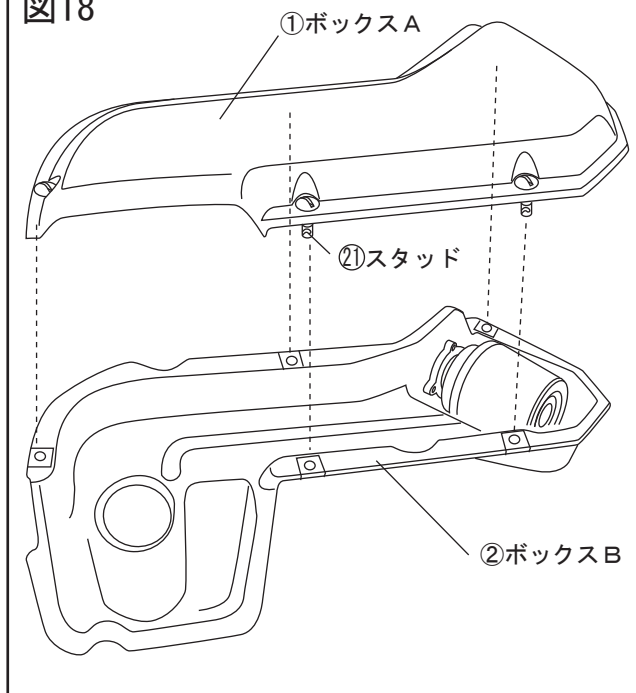
図17



11. ステアBの取り付け(図17)

1. ラジエターサポートのボルトを付属の⑮⑮フランジボルトM6×15に交換してください。交換したボルトへ付属の⑯⑯M6フランジナットを使用して⑨⑨ステアBを取付けてください。
2. カバーエンジンフロントを元の樹脂クリップを使用して、車体へ取付けてください。
3. ⑨⑨ステアBと③③ボックスCを付属の⑩⑩キャップボルトM5×20を使用して固定してください。

図18



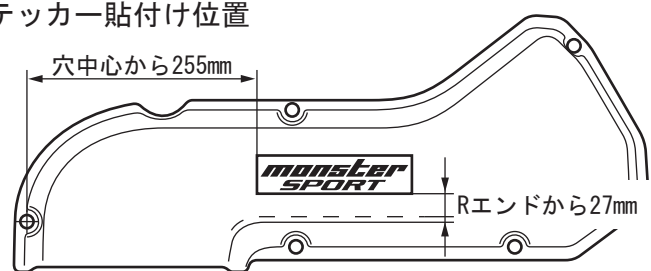
12. ボックスAの取付け(図18)

- ①ボックスAを②ボックスBに被せてください。クォーターファスナー・②スタッドが、③クリップの取付穴にはまって落ち着く状態にしてください。
- クォーターファスナー・②スタッドを回して、①ボックスAを固定してください。
- フロントバンパーを取付けてください。

クォーターファスナーの開閉方法

クォーターファスナーはマイナスドライバーで開閉します。スタッドをクリップに差し込みながら、90°回転(時計回り)に回すことでロックされます。外す場合は、90°逆回転することで解除されます。

ステッカー貼付け位置



取付完了後のバッテリー端子接続

取付完了後、バッテリーの(-)端子を元に戻した際、電子スロットルの全閉学習作業を行う必要があります。※アイドリングが不安定になる原因となるため、必ず作業を行ってください。

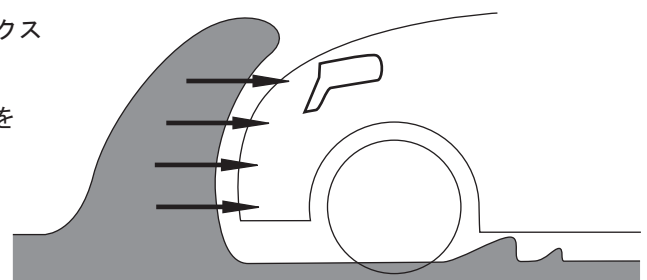
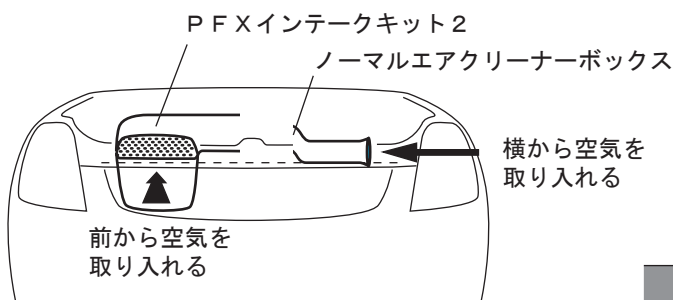
- イグニッションスイッチをONの位置にして、5秒待ってください。
- ※この際、エンジンは始動しないでください。

取付完了後の点検

- エアフロセンサ、エアファンネルクリーナーが確実かつ正確に取付けられていることを確認してください。
- 各ボルト・ナット類、ホースバンドに取り付け忘れや緩みが無い、確実に固定されているかを確認してください。

走行時の注意

- 本製品はノーマルエアクリーナーボックスと比較して、ダクト開口部が前(進行方向)を向いていますので、前方からの水の侵入の危険が高まります。水溜り走行時などは、十分に減速するなど、注意してください。



水溜りに突っ込むと水の壁が出来る低い位置のほうが水は侵入しやすい